二人の友

芥川龍之介

青空文庫

僕は一高へはひつた時、福間先生に独逸語を学んだ。福間先生は鴎外先生の「二人の友」の中のF君である。「二人の友」は当時はまだ活字になつてはいなかつたであらう。少くとも僕などのそんなことを全然知らなかつたのは確かである。

福間先生は常人よりも寧ろ背は低かつたであらう。何でも金縁の近眼鏡をかけ、可成長い口髭を蓄へてゐられたやうに覚えてゐる。

僕等は皆福間先生に或親しみを抱いてゐた。それは先生も青年のやうに諧謔を好んでゐられたからである。先生は一学期の或時間に久米正雄にかう言はれた。

「君にはこの言葉の意味がクメとれないんですか?」

久米も亦忽ち洒落を以て酬いた。

「ええ、ちよつとわかりません。どう言ふ意味がフクマつてゐるか」

福間先生は二学期からいきなり僕等にゲラアデ・アウスと云ふギズキイの警句集を教へられた。僕等の新単語に悩まされたことは言ふを待たないのに違ひない。僕は未だにその本にあつた、シユタアツ・ヘモロイダリウスと云ふ、不可思議な言葉を記憶してゐる。この言葉は恐らくは一生の間、薄暗い僕の脳味噌のどこかに木の子のやうに生えてゐるであらう。僕はそんなことを考へると、いつも何か可笑しい中に儚い心もちも感じるのである。

福間先生の死なれたのは僕等の二年生になつた時か、それとも三年生になつた時か、生憎はつきりと覚えてゐない。が、その一週間か二週間か前に今の恒藤恭——当時の井川恭と一しよにお見舞に行つたことは覚えてゐる。先生はベツドに仰臥されたまま、たつた一言「大分好い」と言はれた。しかし実際は「大分好い」よりも寧ろ大分悪かつたのであらう。現に先生の奥さんなどは愁はしい顔をしてゐられたものである。

或曇つた冬の日の午後、僕等は皆福間先生の柩を今戸のお寺へ送つて行つた、お葬式の導師になつたのはやはり鴎外先生の「二人の友」の中の「安国寺さん」である。「安国寺さん」は式をすませた後、本堂の前に並んだ僕等に寂滅為楽の法を説かれた。「北※山頭一片の煙となり、」——僕は度たび「安国寺さん」のそんなことを言はれたのを覚えてゐる。同時に又丁度その最中に糠雨の降り出したのも覚えてゐる。

僕はこの短い文章に「二人の友」と云ふ題をつけた。それは勿論鴎外先生の「二人の友」を借用したのである。けれども今読み返して見ると、僕も亦偶然この文章の中に二人の友だちの名を挙げてゐた。福間先生にからかはれたのは必しも久米に限つたことではない。先生はむづかしい顔をされながら、井川にもやはりかう言はれた。

「そんな言葉がわからなくてはイカハ。」

（大正十五年一月）

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
2007年6月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二人の友

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/